

- 補助事業名 循環型社会形成推進科学研究費補助金研究事業（平成 20 年度～平成 22 年度）
- 所管 環境省
- 国庫補助金 21,486,000 円 （複数年度の総計）
- 研究課題名 3R に関する環境教育プログラムの実証と社会行動モデルの開発（K2007, K2178, K22097）
- 研究期間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 代表研究者名 浅利美鈴（京都大学環境科学センター）
- 共同研究者名 酒井伸一（京都大学環境科学センター）  
貴田晶子（廃棄物資源循環学会）  
山川肇（京都府立大学）  
中村一夫（京都大学）  
垣迫裕俊（北九州市）  
影山嘉宏（東京電力㈱）  
泉正博（関西電力㈱）  
松山喜代志（トヨタ自動車㈱）  
中村操（㈱高島屋友の会）  
村岡良介（(財)日本環境衛生センター）

# 1章 研究目的・概要

## 1.1 背景

ごみ減量を始め、循環型社会構築や廃棄物管理、そして脱気候変動に向けた取り組みには、家庭や地域、企業等における個々人の理解と行動が欠かせない。しかし「ごみ」と言うと、生活に密着しているが故に情緒的に捉えられがちで、なかなか客観・専門的な知見が広がらず、3R 活動や循環型社会構築に向けたムーブメントに限界をもたらしている可能性があると考えられる。また、3R 配慮行動（ごみ減量を意識した個々人の行動）や 3R リーダー行動（ごみ減量について他者に働きかける行動）を促す教育や取り組みもなされているが、その効果や社会行動モデルは必ずしも、十分に検証されているとは言えない状況である。

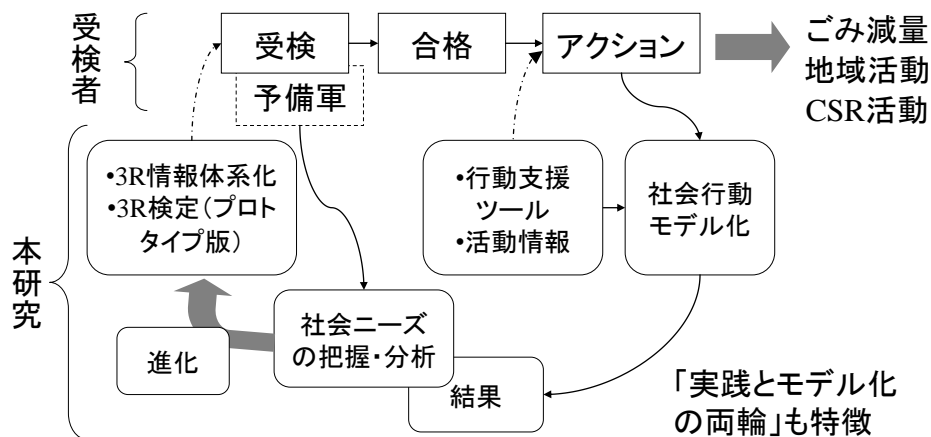
## 1.2 目的及び概要

そこで、3R 関連情報をまとめ、理念と実践、つまり専門分野と生活・現場をつなぐような知識の体系化をはかり、それを普及・浸透させるような環境教育プログラムを実証すると同時に、社会行動モデルの検討・開発を行うこと、それらの結果や既存研究より、3R を中心に、生涯学習を含む効果的な環境教育の枠組・体系化について検討を行うことを目的とした。

環境教育プログラムについては、検定というスタイルを念頭におき、まず試行版として、主に地域において「ごみ減量・3R」行動を指導するために必要な知識レベルを問う検定プログラムの作成と実施、その検証を行い、プロトタイプを確立することとした。そして、一般市民や検定対象者の社会行動モデルに関する社会ニーズ調査やアンケート調査等により、社会ニーズの把握及び社会行動のモデル化を試みることにした。

特に、初年度（2008 年度）のアンケート調査結果より、知識レベルは高いにも関わらず、意識・行動レベルが低かった学生について、調査の焦点をあてた。また、検定プログラムについては、対象範囲を 3R から低炭素社会分野に広げ、この 2 分野の両輪で環境活動をリードしていく教育システムのプロトタイプを構築した。更に、合格者（リーダー）の活動支援のためのプログラムを試行し、より調査性や社会提言性の高いプログラム展開を模索・試行した。

なお、社会実践とモデル化研究の両輪で、ムーブメントをおこす展開を目指す点（チャレンジ）も、本研究の狙いとするところである。



本研究の方法(概要)

本研究では、3年間に渡り、大きくわけて、次の4つの研究や調査を行った。

- 【1】 環境教育プログラムのプロトタイプとしての「3R 検定」「3R・低炭素社会検定」の実施  
・・・2章
- 【2】 3R 意識や 3R 配慮行動に関するアンケート調査  
・・・3章 3R 意識や 3R 配慮行動に関するアンケート調査  
・・・4章 学生の 3R 意識や行動に関するアンケート調査
- 【3】 3R リーダー意識・行動に関するアンケート調査  
・・・5章
- 【4】 3R リーダー活動支援プログラムの開発及び試行  
・・・6章 3R リーダー活動支援プログラムの開発及び試行  
・・・7章 3R リーダー活動支援プログラムの開発 ～広告媒体由来廃棄物の 3R をテーマに～

以降の章において、それぞれの研究方法、結果及び考察を整理した。